

金属

ドバイで中東リサイクル協と共同声明

非鉄金属リサイクル全国連合会

非鉄金属リサイクル全国連合会（非鉄金属連・会長・橋本健一、副会長・アルミ取締役・は先月31日、アラブ首長国連邦（UAE）・ドバイのHOTEL GRAND HYATT CONVENTION CENTER DUBAIで20日中東リサイクル協会（BMR、Bureau of Recycled Metals、理事長・MURMUTABA氏）と低炭素削減に向けた共同声明に調印したと発表した。外国との共同声明は業界初。橋本非鉄金属連会長にドバイでの共同声明の狙いやBMRなどについて聞いた。（白木 毅俊）

調印式の様子。出席者は日本側が非鉄金属連の理事7人、MRM連の理事長のMIRMUTABA（ジュピター）氏以下10人、BMR理事がそれぞれ自社について自己紹介、その際に先々代から日本とのトレードがあるなどの話も出た。締結歓迎ムードの中、調印式は行われた。

共同文の内容は、「両明文の骨子は主に環境、CO2削減、クリン原料（リサイクル原



調印式に臨む橋本会長（写真上）と兼合写真

料使用によるCO2削減を削減する。2点目はの取り組み。3点目は削減の普及など。我々非鉄金属連を加速する取り組み。本と中東のリサイクル企業連とBMRの両者にお互いに共同研究の推進。業の相互貿易促進に向け、非鉄金属リサイクル高度な環境、社会、ガバナンス（ESG）関心を高めた。20日の調印式について、調印式は終了した。中東リサイクル協（BMR）については、「BMRのMURMUTABA理事長と私、橋本非鉄金属連会長が両明文に調印し、調印式は終了した。中東リサイクル協の結成に焦点を当てている」としている。

「共同声明により、非鉄金属連はSDGsに向けてさらに大きな一歩を踏み出したといえる。今後、中東における金属リサイクルビジネスの促進、環境保護、金属リサイクルに関する市場情報、企業の集まりとして非鉄金属連を認知していただき向かうという統一された考えを持ち、それを一貫した取り組みを通じて、非鉄金属連の存在意義を各官庁やOEMの下にまで広げたい」と、関係機関、メーカー各社に、非政治的な組織とだけ設立された。主に教

4〜9月期決算

目録金目 経常益28%増、66億円

日本軽金属ホールディングス 月期連結決算は売上高 円（前年同期比1.0%増）、営業利益66億円（前年同期比17.9%増）、経常利益66億円（前年同期比25.0%増）、純利益66億円（前年同期比25.0%増）と好成績を挙げた。

「LIXIL」営業減益66億円

LIXILの23年4月期製品事業は海外を円換1.1%増、9月期連結決算（国内）中心に低減で減収減益、その他（ビル用サッシ）は464億円（同2.5%増）となった。

建築事業の事業利益は5%増、水栓金具は5%増、高圧サッシは9.4%増、純利益は4億8,000万円（同18.7%増）、9,000万円（同8.8%増）が47.8%増であった。政府の補償で同6.8%減、

11月前半積み、銅系最大60円上げ

「閉印式の骨子は主に環境、CO2削減、クリン原料（リサイクル原

「主として中東リサイクル産業のサプライヤー、トレーダーを代表する団体。中東における金属リサイクルビジネスの促進、環境保護、金属リサイクルに関する市場情報、企業の集まりとして非鉄金属連を認知していただき向かうという統一された考えを持ち、それを一貫した取り組みを通じて、非鉄金属連の存在意義を各官庁やOEMの下にまで広げたい」と、関係機関、メーカー各社に、非政治的な組織とだけ設立された。主に教

十億米を産出する100万トンのスクラップを扱う最大の地理的セクターの一つである中東リサイクル産業の団結に焦点を当てている。」

「出陣者は日本側が非鉄金属連の理事7人、MRM連の理事長のMIRMUTABA（ジュピター）氏以下10人、BMR理事がそれぞれ自社について自己紹介、その際に先々代から日本とのトレードがあるなどの話も出た。締結歓迎ムードの中、調印式は行われた。」

「両明文の骨子は主に環境、CO2削減、クリン原料（リサイクル原

「共同声明により、非鉄金属連はSDGsに向けてさらに大きな一歩を踏み出したといえる。今後、中東における金属リサイクルビジネスの促進、環境保護、金属リサイクルに関する市場情報、企業の集まりとして非鉄金属連を認知していただき向かうという統一された考えを持ち、それを一貫した取り組みを通じて、非鉄金属連の存在意義を各官庁やOEMの下にまで広げたい」と、関係機関、メーカー各社に、非政治的な組織とだけ設立された。主に教

「出陣者は日本側が非鉄金属連の理事7人、MRM連の理事長のMIRMUTABA（ジュピター）氏以下10人、BMR理事がそれぞれ自社について自己紹介、その際に先々代から日本とのトレードがあるなどの話も出た。締結歓迎ムードの中、調印式は行われた。」

「両明文の骨子は主に環境、CO2削減、クリン原料（リサイクル原